

今支館・分館では

『山形県の郷土料理』

芋煮を作る

— 天池分館 —



毎年天池区では地域の皆さんの作品展示を行う文化祭を開催しています。今年の文化祭は、東北復興支援及び災害対策をテーマに行われました。役員の皆さんは朝九時から作品の展示や準備を行います。山形県の里芋を使った山形県の郷土料理「芋煮」は災害時にも作ることができるよう屋外で炭をおこして作ります。その他に地元産の野菜を使ったサラダと炊き込みご飯を作りました。

また宝くじの助成金で購入した非常用発電機を使用してホットケーキを焼きました。午前十一時になると地区の皆さんが集まってきました。今回は昼食の前に人権に関するビデオを上映します。中高生のいじめに関する問題や部落出身の方に対する差別についての映像でした。思い当たることもあり、自分がその状況に置かれた時どう行動すべきなのかなど改めて考えさせられました。いよいよ待ちに待った昼食です。アツアツの芋煮は甘めの味付けで里芋は柔らかく、味がしみ込んでいました。サラダと炊き込みご飯、ホットケーキをいただき、おながはちきれそうでした。

五味子酒というお酒の展示もありました。ほんのり赤く色づいたお酒で試飲もでき、甘酸っぱく飲みやすかったです。宝くじ助成金で購入した災害時のグッズの紹介もあり災害時にトイレとして使用するテントや簡易トイレ、作品を提供してくださった皆さんには災害時のお米がプレゼントされました。普段あまり食べることもない東北の郷土料理に触れることができた文化祭になりました。これで天池区の災害時対策は万全です。

『バーベキュー大会』

— 相生町分館 —

編集委員 木内 那穂

思い返せば数年前になりましたが、小諸市のコンパクトシティ構想により、相生会館は移転が決まり、新築することになりました。思いがけない展開で驚きましたが、早速区長が委員長となり「相生会館建築準備委員会」が組織され



移転先さがしが始まりました。併せて区の法人化、建物の設計：等々と会議を頻繁に重ね、紆余曲折を経てやっと現在地の建設に至りました。完成してみると新会館は区の真ん中に位置し、相生町通りに面した分かりやすい場所で、非常に便利になりました。区民に限らず、広く貸館もご利用いただけます。玄関を入ると正面に、相生町出身の日本画家・牧野伸英氏が会館完成を祝って描きおろして下さった百号の大作「小諸八重紅枝垂」が迎えてくれます。また二階には、相生町商店街振興組合の事務所があります。区民の集う場所として親しまれている相生会館ですが、昨秋十月には育成会役員の発案で、初の試み「みんなのバーベキュー」が企画され、皆さんから好評でした。全区民二百人足らずの相生区ですが年代が違っても一緒に飲食する機会はなく、ご近所さんでも話したことがないということもあるのでは…との思いから「世代をこえて繋がろう!!」と呼びかけられ、区と公民館が後援して実施しました。当日は夕方四時から八時まで開かれ、幼児から八十代の区民さんまで大勢が参加して賑わいました。ゆつくり食べて、飲んで、語りあい、親睦を深めたり、新しい交流が生まれたり、相生会館は美味な香りと和やかな雰囲気になりましたのでした。

編集委員 神津 眞美子

